

ハンマーで殴る 日大東北高の暴力指導で“ドン”にも火の粉

日刊ゲンダイ DIGITAL 12/21(水) 9:26 配信

日大のドン、田中理事長や先輩たちもビックリ (C) 日刊ゲンダイ

殴る蹴るの暴行で1年生の男子生徒が退学――。私立日大東北高校（福島県郡山市）相撲部の騒ぎは波紋が広がる一方だ。暴行は2人の指導者によって行われたという。ひとは50代の非常勤講師で、のこぎりの歯の上で腕立て伏せをさせていた。この講師は9月に自主退職した。問題はもうひとりの20代の教員だ。生徒を平手打ちしたうえでデッキブラシとゴム製ハンマーで殴ったというから、こちらも悪質。学校側はこの教員の氏名を公表していないが、関係者の間では情報が漏れている。教員は日大相撲部の主将を務めたK氏だ。「K氏は青森県立木造高校出身で、日大相撲部時代はプロ力士・遠藤の1つ後輩。身長182センチ、140キロの巨体です。学生時代、全日本選手権の個人で準優勝。3年前の天皇杯全日本相撲選手権大会では準優勝。昨年8月に岩手県で行われた全国教職員相撲選手権大会では優勝しています。同じ木造高校から日大に進んだ先輩に舞の海がいます」（地元関係者）K氏は昨年4月、体育の非常勤教員として同校に採用され、相撲部の顧問を兼任してきた。「彼が暴力をふるうなんて信じられません」とは同校の相撲部関係者だ。「K氏は礼儀正しい好青年。つい先日も道場で熱心に指導する姿を見ました。日大東北は長らく全国高校相撲選抜大会に選手を出していなかったが、K氏が入ったことで来年は2人出るようになった。

暴力指導は熱意がヒートアップしたのでしょうか」日大相撲部というと、思い浮かべるのが日大のドン、田中英寿理事長だ。日本相撲連盟副会長のほか、JOC副会長の要職を務め、角界にも隠然たる力を発揮してきた。相撲評論家の中澤潔氏が言う。「日大相撲部は相撲界の超エリート。問題の教員は田中氏に相撲部を強化するよう期待されて赴任したのでしょうか。大学のときに受けた厳しい指導を行ったのかもしれませんが、相撲に人生を懸けているわけでもない少年にやるのは無理がある。成績を上げなければならないという気持ちがあったかもしれませんが」この騒動がきっかけで追及が日大相撲部にまで及べば、ドンの立場も危うい。「本人は“もっとうまく指導しろよ”と言いたいところではないか」（相撲記者）今回の暴力沙汰は、名門・日大相撲部にとって“アリの一穴”となるかもしれない。

日大内部告発（日大教職員 OB 一同）

既に日大当局は7月の時点で、ゴム製ハンマー、のこぎりの歯、デッキブラシ、平手打ちによる殴る蹴る等の暴行指導の内容を把握しており、事件を起こした教員が田中理事長が指導する相撲部OBであることから、福島県への報告など世間に漏れぬよう事件を隠ぺいするのに必死であった。

特に内田体育会局長兼人事部長は、郡山まで乗り込み、初期対応を怠った松井校長に対して、暴力と恫喝を繰り返し行い、叱責し関係者を驚かせた。これにより事件は一時収まったかに思えたが納得いかぬ関係者が再度声を上げ、数カ月遅れで世が知ることとなった。

内田は、日大の直系付属高（日大東北高）の教員人事権を有する、人事部長（体育会局長）として、田中理事長（日大相撲部）の名を汚さぬよう必死で駆けずり対応するが、体育会アメフト部に身に着けた「暴力と恫喝」では事の終息には及ばず、日大東北高関係者を失望させた。

また、日大記事を随時掲載している「敬天新聞」は、事件が公になったため、日大相撲部の「暴力指導」、JOC副会長も務める田中理事長が「暴力団」と繋がっている全容、日大事業部を牛耳る井ノ口弟・姉に関する記事を間もなく掲載するであろう。

ともあれ、今回の日大東北高相撲部顧問（工藤豪人）の暴力指導が、“アリの一穴”となり、日大・付属高に蔓延している、暴力指導や恫喝等の膿出しになるよう祈ってやまない。